

# ニッポン 横浜こどもスポーツ新聞

# 世界トライアスロンパラシリーズ横浜大会

◇5月11日◇横浜・山下公園周辺特設コース◇男女エリート(スイム1.5km、バイク40km、ラン10km) 男女パラ(スイム0.75km、バイク20km、ラン5km)

エリート男子はニナー賢治(31)NTT東日本・NTT西日本)が7位に入った。男子日本勢として14年の田山寛豪の7位以来、10年ぶりの入賞を果たした。エリート女子の高橋梢子(32)相互物産)は48位、日本勢トップは佐藤優香(32)トーションパートナーズ、NTT東日本・NTT西日本、チームケンス)で44位だった。日本トリアスロン連合は5月30日に男子のニナーと小田倉真(30)三井住友海上)、女子の高橋をパリ五輪代表内定選手として発表した。パラ女子ではPTS4(運動機能障害)の谷真海(42)サントリ)が5位に入った。なお、今大会では、こどもスポーツ記者を一般から募集、選ばれたこどもたちが大会の感想を寄せた。

【パリではメダル】ニナーが力強い走り  
世界トップアスリートと渡り合った。スイムを9位、バイクを先頭集団で終えるも、沿道からの声援にも乗ってランも踏ん張った。最後の周回こそ遅れたものの、一時は3位集団を引く健闘。3位から16秒を遅れてゴールすると、いいレースができた。世界のトップと戦えたこと満足そうに話した。オーストラリア人の父と日本人の母を持ち、オーストラリアで育った。21年4月に日本国籍を取得し、日本代表

として東京五輪に出場。14位の結果に「もっと上に行ける」と自身のレースを見直し、苦手だったランの強化など世界と戦う準備をした。パリ五輪選考に当たる今大会は「最も大事なレース」として臨んだ。直前には6週間の高地合宿を敢行、実業団の九重工地上部の練習に参加し、五輪マラソン代表の赤崎晴とも走った。「走る技術など勉強になった」とランの成長に手応えを得ていた。世界シリーズの7位は、12年マドリッド大会の田山寛豪に並び、日本勢男子

最高タイ。この好成绩もあって、5月30日には日本トリアスロン連合からパリ五輪代表内定が発表されると「パリではメダルをとりたい。100%頑張ります」と力強く言った。2000年のシドニー大会以降、日本のメダルは男女を通じて0。それでも、ニナーは「まだ2カ月ある。メダルのチャンスは十分にある」と話す。日本トリアスロン界の悲願、五輪メダル獲得へ「自信はあります」とニナーは言い切った。

【成果が出てきた】東京パラリンピック代表の谷が、3年ぶりには日本トリアスロン連合からパリ五輪代表内定が発表されると「練習の成果が出てきた」と、笑顔で手を口にした。東京大会後、少しずつ競技復帰への意欲が湧いてきた。パラリンピック3大会に出場した陸上からトリアスロンに転向したのも「長く競技が続けられるから」。この日は家族も沿道で応援。「長男は並走してくれたいし、次男も夫の肩車で応援してくれた。力になります」と話した。

東京大会は自身のPTS4クラスが実施されず、より障害の軽いPTS5に交じっての出場だった。PTS4クラスが採用されることも、パリ大会を目指すきっかけ。もっとも、復帰がギリギリだったために出場のためのランキングポイントに限られ「そんなに、簡単ではない」と言った。復帰後は、五輪3大会出場の「レジエント」庭田清美さんがトレーニングパートナーを務める。「豊富な経験をされている分、学ぶことは多い」と谷。パリ大会へ、厳しい戦いが続くが「最後まで粘りたい」と意欲たっぷり話していた。



戦いを終え、高橋に氷をかける佐藤優香(左)



最後の力を振り絞り、7位に入ったニナー賢治



観客に手を振る谷真海

2024年(令和6年) 日刊スポーツ  
日刊スポーツ新聞社  
東京都中央区築地3の5の10  
〒104-8055 電話(03)5591-8888

## 高橋48位「力不足…」

ゴールした高橋五輪内定は「いい準備はできていたんですが」と言って肩を落とした。スイムで大きく遅れ、バイクでも苦しんだ。ランでは佐藤に抜かれて日本勢トップも譲った。「まだまだですね。スイムで遅れては、レースにならない」と、自らに言い聞かせるように話した。

東京五輪の18位から上を目指して、拠点を置くポルトガルでトレーニングを積んできた。アジア大会連覇など日本女子のエースとして結果は出してきたが、日本のレースで結果を残せず「力不足。厳しい世界だな」と力なく言った。

2大会連続五輪代表になり「ホッとしました」と話した高橋。長く女子を引っ張ってきた集大成として臨む大会。「あと2カ月、今までの経験を糧に、すべてを注ぎ込みたい」と話していた。

## 佐藤優香トップ44位も

「チャンス逃した」

〇…女子日本選手トップも44位という成績に佐藤は、「コンディションは良かったのにチャンス逃した」と肩を落とした。2大会ぶりの五輪出場を目指して日本女子2枠目のパリ五輪キップをつかむために上位を目指したが「スイムで出遅れたのが痛かった。1人でも多くかわそうと思ったけれど、バイク、ランで挽回できなかった」と悔しいレースを振り返っていた。

## 岸本が引退示唆

〇…東京五輪女子代表の岸本新菜(28)が持病の悪化を理由に引退を口にした。五輪後に左足に違和感を覚え、22年に線維化症と診断された。手術を重ねても完治せず、この日も「血液が流れず、足が上がらない」と完走55分中55位の最下位。「トリアスロン好きがあふれている状態でやめざるをえないけれど、やめてもトリアスロンに関わりたい」と涙した。

## 小田倉 五輪内定

〇…33位という結果にも小田倉は、「次につなげると信じたい」と気持ちを切り替えて前向きに話した。スイムで出遅れ、バイクでも落車。「やめようかとも思ったけれど、日本のレースで諦められない」と声援にも後押しされてゴール。パリ五輪代表に滑り込んでの会見では「苦しいことも多かったけれど、後悔のないように準備してスタートに立ちたい」と話した。

## パラ男女 佐藤「世界との差」

〇…佐藤圭一(43)は男子PTS5で8位に終わり「日本のレースで実力を出し切ろうと思っていたけれど、世界との差があった」と振り返った。冬は距離スキーとバイアスロンで4大会連続出場中、夏はトリアスロンで16年リオデジャネイロ大会に出場。射撃、スキー、スイム、バイク、ランの5刀流は「パリは厳しい。そろそろ若い世代に育ってきてほしい」と本音をもらした。

## 宇田ラン途中棄権

〇…表彰台を狙った男子PTS4宇田秀生(35)はランの途中で棄権。「あまり覚えていないんですよ」と言いながらも「ここで無理をしても仕方ない。レースをやめることも大切かと思う。銀メダル獲得の東京大会後は、エースとしてパラトリアスロンの普及にも貢献。パリ大会に向けて「まず出場権を獲得し、出るからには東京以上の成績を」と金メダルを自指す。

## 秦「楽しく」3位

〇…秦由加子(42)は女子PTS2で3位に入り「たくさんの声援の中、楽しく走れました」と笑顔で話した。リオデジャネイロと同じ6位でゴールした東京大会後に、右脚切断部の手術を決意した。長い間苦しめられてきた右脚切断部の痛みから解放されて「手術してよかった。パリでは表彰台に上がりたい」と、3大会目のパラリンピックを自指し意欲を示した。

# 10人のキッズ記者が取材した記事&写真を掲載

めくってね!!

【主催】横浜市、日本トリアスロン連合、横浜市スポーツ協会、日刊スポーツ新聞社  
【メインパートナー】ENEOS、NTT東日本  
【写真撮影】©Shugo TAKEMI/Triathlon Japan Media